

## ようこそ「森町の笑っ茶うお参りコース」へ

災禍転福貧乏神神社三倉分社 祭主 田邊 哲

平成10年9月建立の、長野県飯田市にある「災禍転福貧乏神神社」をご存知ですか？

ご神体の前に立っている丸太を貧乏神に見立てて、大声をあげながら「貧棒」で3回ぶっ叩き、3回蹴飛ばし、3回豆を投げつけて追い払う神社なのですが、このユニークな「追い払い」が受けて今や飯田市の観光名所になっています。

むらおこしに、私の住んでいる三倉に分社を建てさせて頂こうと平成14年1月、本社に交渉に行き許可を頂きました。建てる場所も決めています、貧乏神神社じゃ村八分になりかねないので、今のところ車に乗せて全国を飛び回る「移動型の追い払い所」です。

この移動型「**貧乏神神社三倉分社**」をやりだして次に考えたのは、こういう面白いお参りの対象を森町に7~8ヶ所発掘整備してコース化すれば「笑っ茶うお参りコース」として観光資源になるのではないかという事でした。

ちょっとご紹介すると、墓石のかけらを財布に入れておくと勝負運が上がるという言い伝えで墓石が削られ続け、3代目になる大洞院にある「**森の石松の墓**」。森町にはもう一カ所問詰に「**森の石松の墓**」がありこちらもご案内しています。

鍛冶島の日月神社には「**夫婦御神木**」があります。夫にあたる片方の榊の枝が、妻の榊の幹に突き刺さっているのです。榊でさえこんなに真剣に相方を求めているのかと思うといろいろと考えさせられます。

健康で長生きし長患いせずに極楽に往きたい、という誰もが願う思いを叶えてくれるあじさい寺(正式名極楽寺)にある阿弥陀仏「**遠州ぼっくり様**」。

中川の地蔵寺には、荒縄でぎゅうぎゅう縛りながら命じれば失せものをたちどころに探してくれる「**お縛り不動**」。

戸綿の泉龍寺には、狼に追われて逃げ回っている子供の身代わりに首を食べられてしまった首が無い「**身代わり地蔵**」。この慈悲深いお地蔵様は、今全国のリストラ対象のサラリーマンの身を案じて下さっています。つい先日、リストラを一切しないという経営方針を貫いている全国の会社経営者を森町に集めて「首無しサミット」を毎年開くように！とのお告げもありました。「首無し」は「苦日無し」「苦悲無し」にも通じます。

三倉には、人生遅咲きの人をいつも暖かく励まして下さる「**遅咲き観音桜**」があります。

建設中の太田川ダム近くにある「**片吹の大まる様**」(本当は、大まら様)は直径12cm長さ94cmの陽茎石がご神体の男の神様。いつもこんな山奥にいらっしゃるので、女性がみえると大喜びです。この神様に太ももをちらちら見せながらお願いすると、もっと中見たさに男の神様が必死に願いを叶えてくれる。当然お礼にもっと中を見せてあげなければいけません。太田川ダムが出来て水が貯まるとお参り出来なくなる女の神様「**山の神様**」も今でしたらお参り出来ます。

こんなコースを私が添乗員になってご案内します。当然私の笑っ茶う講演付ですし、「笑っ茶う初詣」もあります。昼食は「三鞍の山荘」今井克宏シェフの開運フレンチ、アクティ森の重松調理長の地元食材をふんだんに使った季節料理、「ほっとり」の手打ちそばの中からチョイス出来ます。

筑波大学名誉教授村上和雄先生が、「笑い」と「感動」は遺伝子にまで好影響を与える事を証明しています。

皆様、「森町の笑っ茶うお参りコース」で思いっきり大笑いし、美味しい空気をいっぱい吸いながら一日をお楽しみ下さい。

そして、ほのぼのと心温まる、先人の知恵に心から感心する、理屈抜きで腹を抱えて笑ってしまう、ユニークな、面白い、笑っ茶うお参り対象が皆様の地域にもまだまだ埋もれていると思います。

スローライフ社会にむけて、これらを発掘整備し皆様の地域の「笑っ茶うお参りコース」をお作り頂き、「笑っ茶う蹴教サミット」で是非PRをお願いします。

上記以外に、

中川の「**咳の婆さ**」、小國神社の「**いぼとり池**」、梅林院の「**いぼとりさん**」、大門の「**八幡様**」などもあります。